



# 秦野市里地里山の木質バイオマスを活用した 脱炭素型地域循環システム形成事業

## 【事業概要】

里地里山の保全等に伴って発生する木質バイオマスを燃料等として有効活用し、化石燃料の使用量の減少を図るとともに、エネルギー起源のCO<sub>2</sub>排出量を削減する地域モデルを形成する。

さらに、公園や街路樹等の整備に伴う剪定枝や荒廃が進む竹林資源の活用を検討し、里地里山における有害鳥獣被害への対策、並びに本市の上水道の約7割を占める地下水源を育む水源林の保全に繋げる。

令和2年2月25日

秦野市環境産業部環境共生課

# 1. 事業の背景



## 現状

秦野市の里地里山・雑木林は、葉たばこ栽培が全盛期であった昭和30年代半ばまでは適正な管理が行き届き、10～15年間隔で伐採と萌芽更新がなされていたが、葉たばこ栽培の終焉や社会構造の変遷に伴い、本市のみならず全国的にも里地里山の喪失と質の低下が進行していった。

そのような中、平成16年度に環境省の「里地里山保全再生モデル事業」の実施地域に選定され、翌17年度には「里地里山保全再生モデル事業地域戦略」を策定し、再び「里地里山の保全再生による地域社会の発展」に取り組んでいる。（この保全活動を実施する主体として、市内には24団体（NPO等）が存在 ※H30年度実績）

また、平成22年5月には、天皇・皇后両陛下の御臨席のもと第61回全国植樹祭を開催し、植樹祭後も継続した植樹・育樹・活樹の取組みを進め、里地里山の環境、森林保全への市民意識の高揚を図っている。

## 課題

一方で、保全活動を実施している保全団体は、会員の高齢化、新規会員の減少、運営費の確保といった活動面における課題を抱えるとともに、整備団体（NPO等）の活動の低下を招く要因となり、その悪循環は、荒廃林の増加をはじめ有害鳥獣被害にまで波及している。

また、経済面においては「地域経済循環分析（2013年版）」によると、本市の域内総生産の約3.7%にあたる146億円程度がエネルギー代金として市外に流出しているため、これらのエネルギー代金を域内に循環させるシステムを構築することで、両面の現状を打開するとともに、本市のさらなる活性化の一手段となるものと考えている。

# 2. 本事業で目指す地域循環共生圏の姿



里地里山の計画的な保全・管理により、  
**①交流の拡大（関係人口等の増加による担い手の確保）**を実現します。

里地里山の計画的な保全・管理により、  
**③エネルギーコスト・CO2排出量の削減**を実現します。



削減量: **237t-CO2/年**

削減費用: **5,177千円/年**

※本市のエネルギー代金流出額  
 →**146億円/年**  
 (域内総生産の約3.7%)



**ポテンシャル**

効果によって、「水源林」や「生物多様性」といった里山の持つポテンシャルの活用に期待

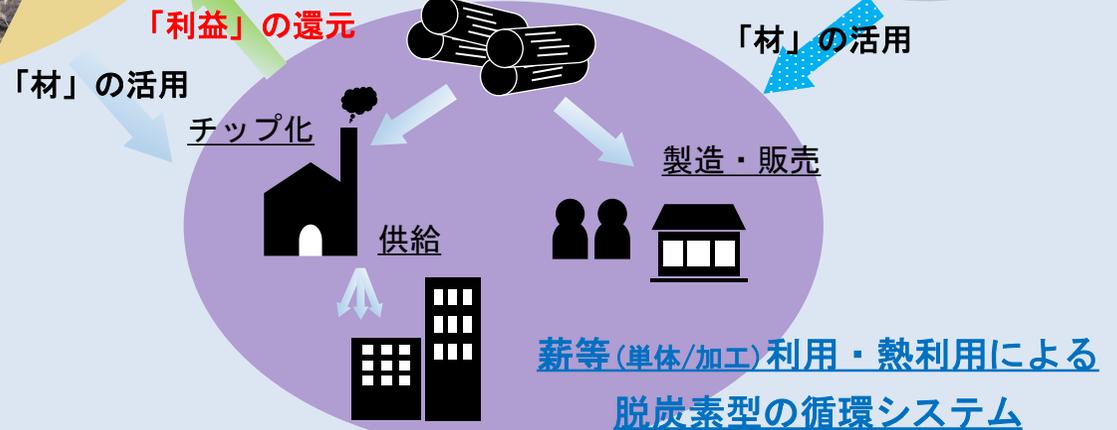
⇒里山を中心とした**自然環境の保全**

**現状 ↓ 効果**

林地残材や竹の未活用 → **有効活用**  
 荒廃林の増加 → **減少**  
 有害鳥獣被害 → (被害)の**減少**

⇒**整備団体(NPO)の意欲向上・活性化**

**里山整備に伴うCO2削減量・森林吸収量の増加・経済の好循環**



里地里山の計画的な保全・管理により、  
**②エネルギー事業の拡大（燃料製造量の拡大・新たな活用の創出など）**を実現します。

# 3. 調査内容



目的	内容
<b>令和元年度事業【可能性調査委託】</b>	
<p>木質バイオマス事業の根幹を成す賦存量等の基礎調査、及び同資源の効果的な利活用方法の検討を行い、<b>事業化のための基礎データとして集積</b>する。</p>	<p><b>木質バイオマス賦存量の実態把握調査</b> ▶ 里地里山の保全活動や公共事業による発生量及び見込量を調査する</p>
	<p><b>木質バイオマス資源の利活用方法の検討</b> ▶ 販売ルート of 把握及び新規市場開拓の検討を行うとともに、未利用資源の発掘、その他利活用方法についても検討する</p>
	<p><b>公共施設におけるエネルギー使用量の調査</b> ▶ 代表的な公共施設におけるエネルギー使用量を調査し、具体的な導入可能な公共施設（3施設程度）を選定する</p>
	<p><b>民間事業所への設備導入に向けた各種整理</b> ▶ 上記調査結果を分析・応用し、公共施設だけでなく民間の工場及び事業所での設備導入について、多角的観点からの情報収集を行い課題を整理する</p>
<b>令和2年度事業【事業化システム形成委託（予定）】</b>	
<p>集積された基礎データ等をもとに、再生可能エネルギーの利用促進及び二酸化炭素排出量の削減、森林吸収量の増加、地域経済の好循環の創出等について、<b>本市の地域資源を十分に生かした事業モデル実現</b>のための検証を行う。</p>	<p><b>事業採算性の検証</b> ▶ 公共施設利用のほか、（加工）流通等といった事業の拡大を視野に入れた場合の採算性が見込める規模等について検証する</p>
	<p><b>調査及び検討結果の集約、並びに事業の詳細・事業実施体制構築の検討</b> ▶ 地域関係者との合意形成等を踏まえた事業実施体制を整備し、安定的かつ発展的に運用していくための実務協議策を検討する</p>
	<p><b>脱炭素型地域循環システムによる地域経済循環等の検討</b> ▶ 「地域循環共生圏の創造」への寄与、あるいは、他地域における地域経済活性化策としての波及可能性を検討する</p>

# 4. 今後のスケジュール



年度	項目
令和元年	<u>木質バイオマス事業の可能性基礎調査及び利活用方法の検討</u> <ul style="list-style-type: none"><li>➤ 木質バイオマス賦存量の実態把握調査</li><li>➤ 木質バイオマス資源の利活用方法の検討</li><li>➤ 公共施設におけるエネルギー使用量の調査</li><li>➤ 民間事業所への設備導入に向けた各種整理</li></ul>
令和2年	<u>木質バイオマス事業の実施体制の検討</u> <ul style="list-style-type: none"><li>➤ 事業採算性の検証</li><li>➤ 調査及び検討結果の集約、並びに事業の詳細・事業実施体制構築の検討</li><li>➤ 脱炭素型地域循環システムによる地域経済循環等の検討</li></ul> ※賦存量調査及びエネルギー使用量調査（前年度継続）
令和3年	<u>事業の開始</u> <ul style="list-style-type: none"><li>➤ 地域関係者との綿密な協働、並びに認識共有による実施体制の安定化</li><li>➤ ソフト・ハード両面における進行管理</li></ul>
令和4年	<u>事業の維持及び拡大</u> <ul style="list-style-type: none"><li>➤ 安定維持、並びに発展的な実施体制の確立</li><li>➤ 社会情勢や社会潮流を見通したスケールメリットの運用によるエネルギー事業拡充の検討</li></ul>